

地域と消費者から共感の得られる農業をめざして
～散居集落の原風景に支えられて～

有限会社アグリメントなか
代表取締役 渡部清吉（飯豊町）

1 受賞者の概要

飯豊町中地区の生産組合長と有志を中心として設立された「中地区大豆会」が母体となり、平成15年3月に設立された法人であり、町内における集落営農組織の先駆者たる法人として現在に至り、地域の農地保全に大きく貢献している。担い手・労働力不足が課題となる中、地域内の約85haに及ぶ農地を集積し、ICT対応コンバインやドローンの導入などスマート農業に可能性を見出し、省力化や高品質な農産物生産に取り組んでいるほか、町内学校給食用に小麦を栽培し、地場産小麦のパンの製造に提供するなど当町の食育の一環を担っている。



2 特色ある活動

(1) 農地集積による経営管理の一元化・省力化への取組み

役員が所有する農地も全て法人が一括管理することで、農地の集積が進み、計画的な作付けと栽培体系の大型機械化を可能にし、飯豊町の土地利用型作物受託生産組織のモデルになっている。

(2) 高収益作物の導入と周年作業体系の確立

水稲、そば、小麦等の土地利用型作物とおうとう、いちごなどの園芸作物を組み合わせた周年作業体系を確立し、法人経営の安定化、特に後継者などの年間の雇用体制の整備を図っている。

(3) 循環型農業の取組み

飼料価格の高騰が続く中、労働生産性の高い子実用とうもろこしに着目し令和元年から町と連携して実証試験栽培を開始した。生産された子実は町内の畜産農家へ提供されている。



子実用とうもろこしの収穫

(4) 地域と密着した農業経営・食育活動の取組み

地域の幼児施設や小中学校を対象に、おうとうなどの農作物の摘み取り体験学習を行い、農業の役割や食を支える農作物の大切さを伝えている。

令和2年から製パン用小麦の新品種（夏黄金）の試験栽培に取り組み、収穫された小麦は学校給食用パンの原料として提供され、町の食育活動の一翼を担っている。

3 今後の発展方向

地域の担い手として農地を守るため、子実用とうもろこしなどの土地利用型作物の利活用や、畜産農家の堆肥などの有効活用を図りながら、持続性の高い資源循環型農業への取り組みを進めていく。